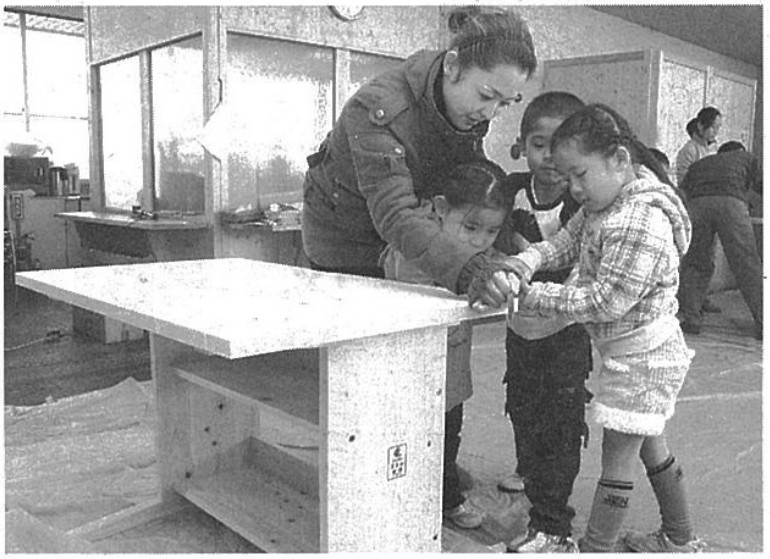
平成22年1月20日（水）　富士ニュース　掲載

流通経路を確立したブランド木材

富士山桧輝で机作り

親子連れが環境への意識高め

人工林から出る木材の流通・消費経路を確立することで、持続可能な森林経営を可能にした木材ブランド「富士山桧輝（ひのき）」を使った学習机の制作体験イベントが先ごろ、富士市大淵のマルダイで開かれた。



机の角を切り落として丸く加工する親子連れ

流通システムをつくる工務店などの組織、富士山木造住宅協会・森林認証材委員会による初めての取り組み。富士山桧輝を使った住宅を建設中の親子連れ7組が参加し、力を合わせて机を作った。

参加家族は昨年11月、富士山桧輝を産出する日本製紙北山社有林（富士宮市北山）や切り出した木材の製材現場を見学。流通・消費経路の確立で、伐採期を迎えたヒノキを滞りなく住宅利用に供給するとともに、生育過程での二酸化炭素の効果的吸収や、人手が入らないことで山が荒れる放置林への対応といった環境問題への貢献について学んだ。

この日の学習机作りは家族で富士山桧輝を選ぶ意義を確認しても らいながら、将来の施主となる子供たちに楽しい思い出を刻んでもらおうと実施。あらかじめ切り出された天板や足などを組み立て、角を丸く加工したり塗料を塗ったりして幅110㌢×奥行65㌢×高さ70㌢の机を完成させた。

4月に小学校に進学するという佐藤孝祐さんは「のこぎりを使ったことが楽しかった。この机でたくさん勉強したい」と笑顔。父親の彰倫さんは「以前は木を消費することで自然破壊につながると思っていた。森をしっかり管理することで、人間と自然のいい関係が築けると知り安心しました」と話した。

学習机作りは、3月に富士山ろくへヒノキの苗木を植林することで完結する予定。